



撮影 松尾武司・蓉子(京都)

江洞窟ごうとうくつ

不思議発見！弁財天を祀る小豆島の聖地

小豆島霊場第六十番

竜宮城の面影

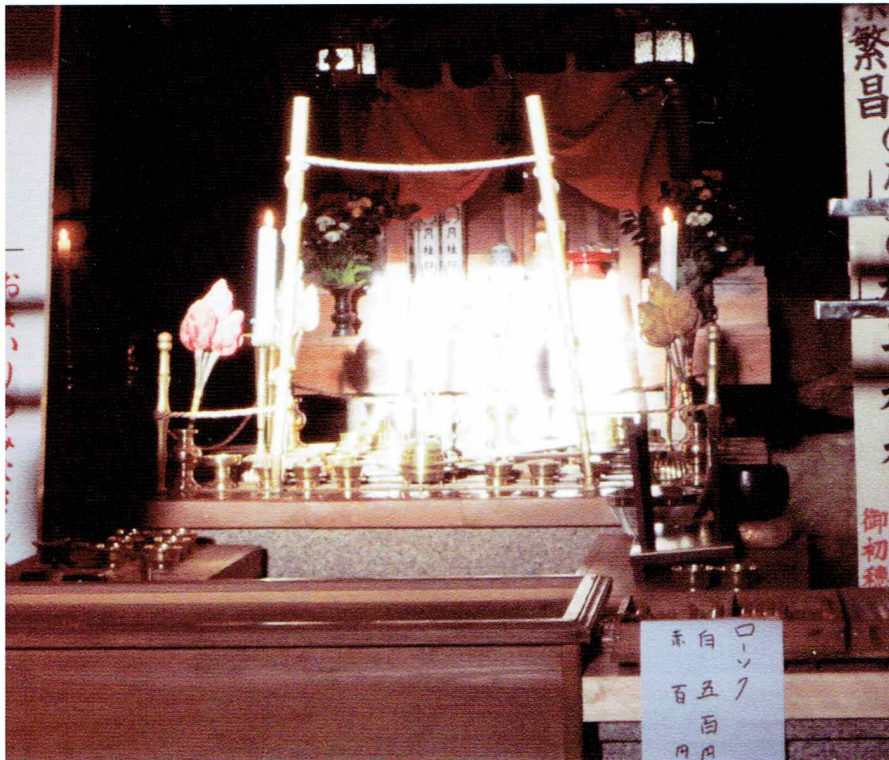
香川県小豆島八十八ヶ所霊場第六十番札所・江洞窟は、瀬戸内海小豆島の南西端、海に突き出た岩場の地下の洞窟で、弁財天を祀っている。第五十八番札所西光寺（瀬尾哲命住職）の末庵の一つである。

江洞窟の外観は、まさに竜宮城。朱の柱に朱の鳥居、緑の大窓付きの壁等々、門外の石造りの弘法大師像と相俟って一級寺院の体裁を具えている。

この外観は、しかも高さ三十メートルに及ぶ砂岩の崖に化粧を施したものである。その崖の下約三メートルに、高さ三メートル×横十四メートル程の自然洞窟があり、弁財天は洞窟の入口に面して中央部正面に祀られている。

平成二十六年十月、御本尊弁財天は、西光寺住職の計らいで、朱塗りの立派なおうちに入られた。

朝日が弁財天を包み込んだ瞬間



撮影 宮城英徹

2015.1.29



弁天洞窟 庵主
宮城 英徹
〒761-4113
香川県小豆郡土庄町柳
☎ (0879) 62-5211

第一の不思議

平成二十四年十一月十五日、朝七時三十分、緑の大窓からの朝日の光が三メートルの長

方形を作って、弁財天をすっきり包み込んだ。大日如来が弁財天をしっかりと抱きしめた瞬間である。固い抱擁は七時三十分まで続いた。愛し合う男女が会うことの出来た瞬間、爪先立ちして抱き合い、呼吸が止まり、すべてが停止した瞬間。これがその瞬間だ。私はそう感じて、手を合わせた。

それが江洞窟第一の不思議だ。

弁財天の前に光の輪

弁天洞窟第二の不思議は、第一の不思議から一時間後に起きた。本尊の弁財天はじめ不動明王や地藏尊などの十三仏にお茶を差し上げ、灯明を捧げ終わって、まず一息。洞窟の石階段を昇って振り返り、改めて洞窟を見渡した時であった。「驚いた！」

階段の最下段の右端、手すりの付け根を支点として三十〜四十センチ幅の楕円形の光の帯が弁財天の前の地面に広がっていた（下の写真）。「光の輪、これは弁天様の笑顔だ」。私は、その丸い柔らかい光の輪を見た瞬間、そう感じた。弁財天が昇る朝日（大日如来）の固い抱擁を受けて満足の意を、こういう形で表している。

弁財天の笑顔は 幸せの約束

弁天様の笑顔が見られるのは十一月中旬から翌年の二月始めの間である。この時期、お天気で、朝日が輝いている朝は必ず見ることが出来る。弁天様を抱擁するのが七時半頃、弁天様の笑顔が見られるのが八時半ころである。

この時期の太陽は、江洞窟の前庭におわすお大師様の向こうに見える小さい富士山のような山（上の写真＝三都富士）の近くから昇り、向って右の方に移ってゆく。三都富士は小豆島・三都半島先端白浜山のこと



撮影 宮城英徹

2015.1.23

大師堂の岩壁に彫られている梵字の^ヲ（大日如来）が特別の霊力を放つパワースポットであることについては、すべての霊場案内書に詳しく書かれている。しかしこの光の不思議については誰も気付いていなかった。また、江洞窟の前庭におわす弘法大師像の巨石を含め、洞窟入口の岩壁や海中にある丸石は、十三佛の化身だと言われている。江洞窟は佛のミサキである。

昔から首から上の病、たとえば蓄膿症、脳の病、中耳炎、どもりなどが、お陰をうけて治ったという方がたくさんおられるが、加えて弁財天の笑顔は、江洞窟参拝者に、必ずや、更なる幸せを呼ぶものと信じている

合掌

三都富士から昇った朝日は一直線上の江洞窟に真つすぐ入り、四角の光の塊（カタマリ）となり、一時間あと、斜めに入って石段の金属の丸い手摺りにあたり、その反射光が大きな光の輪を作りだす。これが弁天様の笑顔だ。江洞窟は大日如来と弁財天が特別のひと時を過ごされる別荘と考えられる。

Profile/一九二〇年生。長野県旧制松本高等学校出身。戦後GHQ SCAP（連合国軍総司令部）に勤務。その後、英語力を活かし商社マンとしてイラクに滞在。八十才を過ぎて、高野山大学・大学院修士課程で仏教を学び御仏入門。平成二十四年、西光寺瀨尾哲命住職の薦めで小豆島霊場第六十番札所「江洞窟」の庵主となる。

本誌は高野山時報「平成二十五年新春合併特集」に掲載された文章を加筆修正しました。



撮影 宮城英徹